

《資料》

部落解放研究関係文献目録

(一九八五年七月～九月)

【総記】

京都部落史研究所「各地の研究所の活動から」

(『部落解放研究』四五号、7月)

編集部「部落解放研究関係文献目録(一九八五年一月～三月)」

(同右)

(資料)「<部落解放研究所おしらせ>定款の一部改正」

(同右)

(資料)「主要文献目録(『季刊・教師のはぐるま』『月刊・はぐるま』『月刊どの子も伸びる』)」

(『月刊はぐるま』一〇〇号、8月)

<1984年度の部落問題―成果と課題>

(『部落』四六一号、8月)

若杉隆志「部落問題と図書館」(同右)

(資料)「部落問題をめぐる主な動き(略年表)」(同右)

(資料)「1984年度部落問題研究所定期誌総目次」(同右)

(資料)「主要文献目録(『季刊教師のはぐるま』『月刊はぐるま』『月刊どの子も伸びる』)」(同右)

(資料)「主要文献目録(『季刊教師のはぐるま』『月刊はぐるま』『月刊どの子も伸びる』)」(同右)

(資料)「主要文献目録(『季刊教師のはぐるま』『月刊はぐるま』『月刊どの子も伸びる』)」(同右)

【現状】

松井昭浩「へぶらく 西・東」『変わったなあ…』と語る和歌山県

橋本」(『国民融合通信』一三三三号、7月)

松井敏子「よみがえる自立―大型作業場(縫製)とりくみの教訓」

(『解放の道―理論・政策・資料版』十八号、7月)

中野初芳「農・漁村はどうなっているか…」

(『国民融合通信』一三四号、8月)

北条大州「和歌山県上富田の肉牛肥育経営」(同上)

北川鉄夫「へぶらく 西・東」原発反対に起つ山口県上関町」

(同上)

<シンポジウム「今日の部落の実態把握をめぐって」>

(『部落解放研究』四六号、9月)

三輪嘉男「類型別にみた部落の住宅とまちづくりの課題―大阪部落実態調査を中心に―」

中川喜代子「奈良県における産業・労働実態調査結果の概要」

国歳真田「鳥取県部落実態調査結果(概要)」

村越末男「鹿児島県における部落実態調査結果の概要」

石元清英「部落実態調査と調査票―『京都府部落解放実態調査』を終えて」(『こぼる』九三号、9月)
 石元清英「戦後日本農業の展開と農村部落」(『こぼる』部落解放』二〇号、9月)
 北川鉄夫「へちまく 西・東く 同和要求見られぬ東京都昭島市」(『国民融合通信』一三五号、9月)

【行政】

大平安雄「同和教育をめぐる動向・長野く 長野県の同和行政の動きと問題点」(『同和教育運動』二七号、7月)
 松村晃一「同和对策事業の完了めざし住民の自立・自覚を―個人給付事業の見直し―」
 (『解放の道―理論・政策・資料版』十九号、8月)
 (資料)「山本登」八尾市同和对策事業に関する中間提言②」(同右)
 領家 穰「『三木市における今後の同和行政のあり方について(答申)』を読んで」(『こぼる』部落解放』二〇号、9月)

【運動】

辻 暉夫「苦しみの日々を越えて―ある結婚」
 (『部落解放』二二三号、7月)
 (資料)「部落解放基本法案」(同右)
 (編集部)「友好深めた中央婦人対策部第一次訪中団―保育所、万元戸、ひとりっ子」(同右)

古谷 馨「へ婦人部活動特集へ婦人部運動の到達点と課題」

(『解放の道―理論・政策・資料版』十八号、7月)

へ特集へ「狭山事件特別抗告棄却を批判する」

(『部落解放』二二三号、8月)

山上益朗・小森龍邦「対談・なりふり構わぬ棄却決定」

中山武敏「真実の前に追いつめられた最高裁」

狭山事件の真相を糾す会「一般市民を愚弄する棄却文を糾弾す」

石川一郎「最高裁決定に想つ」

日高六郎「へ真実くを追求するために」

八木晃介「真実究明を恐れる裁判構造―へ裁く者くへ裁かれ

る者くの逆転を」

土方 鉄「狭山特別抗告棄却決定を批判する―①スコップの

土壌について」

野間 宏・佐木隆三・免田 栄ほか「狭山事件特別抗告棄却

に抗議の声」

部落解放同盟中央本部ほか「狭山事件特別抗告棄却にたいす

る抗議声明」

石川一雄「獄中からのメッセージ・最後の血の一滴まで闘つ」

最高裁判所第二小法廷」(資料)「狭山事件特別抗告棄却決定

(全文)」

(グラビヤ)「真実を恐れる最高裁」

上杉佐一郎「同対審」答申二〇年へ部落解放」

(『社会啓蒙情報』二六号、8月)

編集部「へ報告く」仲間には追及しない』『三解連』の無原則な差別糾弾―三重県大安町の結婚差別事件にかかわる配転訴訟から」(同右)

へ特集へ「こま部落でとりくまねばならぬこと」

(『部落』四五九号、7月)

三塚武男「部落問題において自立をどう考えるか―職場とくらしの場における自由と民主的社会的交流・連帯のひろがりをめざして」

山本敏實「自立のための地域づくり―大津市下龍華地区のと

りくみに学ぶ―」

へ隣保館を中心としたとりくみ」

服部嘉雄「北比江地区のととりくみ」

猪村和巴「串本町でのとりくみ」

編集部「働くことを通じて自覚・自立を―堺市同和地域振興

協会を訪ねて―」

岩本 直「(現地報告)愛媛県で行なわれている差別糾明会事件

の問題点」(同右)

杉浦頭勝「(動向)へ運動く和歌山でも就職差別撤廃共闘会議結

成」(同右)

(編集部)「広島県立図書館「図書破壊」事件のそこ」

(『国民融合通信』一三三三号、7月)

嶋津良夫「東日本で初の就職共闘―群馬で結成」(同右)

山内康雄「八鹿・朝来暴力事件今後のたたかい―大阪高裁控訴審

に向けて」(『同和教育運動』二七号、7月)

友永健三「なぜ部落解放基本法が必要なのか」(同右)

へ身元調査規制条例をどう受けとめるか」(同右)

高野真澄「立法の趣旨を生かした運用を」

門馬幸夫「悪質な差別を商うものに大きな鉄槌」

秦野八重「プライバシー保護の原則にそっている」

田村正男「前進への一歩にすぎない」

清水宣行「問い直される企業体質」

松山博則「部落周辺地域共闘のめざすもの」(同右)

師岡佑行「狭山事件とその闘いの歴史から―最高裁判所の再審特

別抗告棄却にさいして」(『こぼる』九二号、8月)

村崎勝利「同和行政からの自立をめざす全解連の課題」

(『部落』四六一号、8月)

林信一郎「同和会の脱税請負事件」(同右)

下村則夫「(動向)へ運動く市民的な民主主義実現の高まりのな

かで―茨木市部落問題市民大学習会―」(同右)

(編集部)「『部落解放基本法』の危険性―海川道郎弁護士・前

野育三関西学院大学教授に聞く」

(『解放の道―理論・政策・資料版』十九号、8月)

藤谷俊雄「地対協の『意見具申』をめぐって」

(『部落』四六一号、8月)

部落問題資料研究会「岐路に立つ部落解放運動」(同右)

杉之原寿一「『地対法』後の法的措置をめぐる論議を裏みるも

のとするために」(同右)

奥山峰夫「部落差別的法的規制と解放理論の状況」(同右)

橋 謙「八鹿・朝来事件控訴審第一回公判を迎えるにあたって」

「(『部落問題—調査と研究』五七号、8月)

高野真澄「部落解放基本法」をめぐる議論について」

(『部落解放研究』四六号、9月)

《特集》「『同対審』答申二十年と『部落解放基本法』」

(『部落解放』二三四号、9月)

上杉佐一郎「答申、特別措置法」を生み出したもの」

小森龍邦「『部落解放基本法』制定要求の闘い」

友永健三「『部落解放基本法』について」

部落解放基本法制定要求国民運動中央実行委員会《資料》

部落解放基本法案」

今泉賢三「同和問題を解決するための基本的法律を」

吉田賢作「答申二十年を振り返る」

川本勲・寺澤亮一・林力ほか「『同対審』答申二十年に思う」

三國連太郎「(上杉佐一郎 HOTSPOOT) 宗教と部落解放運

動」(同右)

上杉佐一郎・上田卓三・大原亨「追悼・沖本泰幸代議士」(同右)

土方 鉄「狭山特別抗告案却決定を批判する—◎悲鳴等につい

て」(同右)

麻田光広「八鹿差別弾圧裁判控訴審の審理にあたって」

(『ひょうご部落解放』二〇号、9月)

「解同」の暴力から人権と教育・地方自治を守る山口県連絡会議

「(現地報告)下松市末武中への『解同』の暴力的『糾弾』に

ついで」(『部落』四六二号、9月)

田中耕一郎「逆流を排し『窓口一本化』を打破る」(同右)

奥山峰夫「(動向)〈行政〉『興信所条例』適用基準(案)につ

いて」(同右)

【理 論】

渡辺俊雄「戦後部落史の研究と『国民的融合』論批判」

(『部落解放研究』四五号、7月)

井上 清「われ思う、故にわれ在り」(4) いまの権力に何も期待

できないら」(『こべる』九二号、7月)

村崎勝利「同対審答申20周年の地点に立って—第14回全部研福岡

市で開催—」(『部落』四五九号、7月)

池田孝雄「書評(真田是・著)『部落問題の解決』」

(『同和教育運動』二七号、7月)

井上 清「われ思う、故にわれ在り」(5) 『被差別部落』とらう

語について」(『こべる』九二号、8月)

中村 正「(動向)〈研究〉国民的融合論の新しい局面—『部落

問題研究』88輯の特集—」(『部落』四六一号、8月)

山口正之「解同新綱領をめぐる理論問題—国民的融合論の発展の

ために」(『部落問題研究』八四号、8月)

奥山峰夫「部落差別の法的規制と解放理論の状況」

(『部落』四六一号、8月)

《第七回全国部落解放研究者集会(報告)》

(『部落解放研究』四六号、9月)

大賀正行「国民融合論批判と部落解放理論」

大賀正行「(研究部長まことめ) 同対審『答申』と部落解放基

本法」

井上 清「われ思う、故にわれ在り」(6) 改善と解放」

(『こべる』九三号、9月)

《特別企画・現代資本主義と部落差別》

(『ひょうご部落解放』二〇号、9月)

鶴嶋雪嶺「解放理論の新展開をめぐる」

【解放教育】

清原直雄「〈史料紹介〉堺市立陵西中学校関係の同和教育史料に

ついて」(『部落解放研究』四五号、7月)

吉田賢作「臨教審の教育論議をこう見る」

(『部落解放』二二二号、7月)

石川元也「(動向)〈行政〉市教委の法的責任をめぐらした

判決—意欲部東小教育正常化要求弾圧事件—」

(『部落』四五九号、7月)

《特集》「保育の公的保障とは」(『こべる』三二二号、7月)

〈いざ、豊中では〉

西田益久「同和保育にとりくんで—先生、同和保育大事にし

てな」

山根叔子「同和保育にとりくんで—私たちが大切にしている

もの」

《特集》「『はじめ』と集団の教育」

(『同和教育運動』二七号、7月)

声名猛夫「〈中学校でのとりくみ〉私たちの人権宣言・明日

に生きる—堺市立殿馬場中学校生徒会「はじめ」克服のと

りくみ」

西麻実佐子「〈高校でのとりくみ〉基本的人権を守るホーム

ルームづくり」

《小特集》「『教育改革』と高校入試制度」(同右)

西端平吉「岡山県における同和教育をめぐる重大事態—吹きあ

れる教育統制・教育反動の嵐」(『同和教育運動』二七号、7月)

山崎充宣「〈レポート〉同和教育運動I—一方的な同和校化に抗

して—大阪・大東市立深野小学校のPTAと学校の共同声明ま

で」(同右)

上田佳子「〈レポート〉同和教育運動II『解同』の教育介入を

受け、現場は—糾弾会に参加せず、あたりまえの教育をすすめ

るたたかひ」(同右)

田村建夫「〈レポート〉同和教育運動III〈高校生人権・部落問題

研究集会をめぐる」(同右)

大谷猛夫「〈同和教育をめぐる動向〉東京〈東京の同和教育行政

—研究指定校方式の問題点」(同右)

大平安雄「〈同和教育をめぐる動向〉長野〈長野県の同和行政の

動きと問題点」(同右)

《第9回大学同和教育研究会報告》(『部落』四六〇号、8月)

東上高志「『臨教審』と大学同和教育」

梅田 修「教育内容〈4年制、教職科目〉」

河野通博「教育内容〈4年制、一般・専門科目〉」

- 石田眞一「教育内容へ短期大学」
井手幸喜「大学と部落問題」
《特集》「月刊どの子も伸びる」一〇〇号
（『月刊どの子も伸びる』一〇〇号、8月）
佐古田好一「同校研の歩み」
杉山明男「文学の実践について」
村橋 端「同校研（はぐるま）と社会科・部落問題学習」
村橋 端「生活を考え、生活から考える」
河瀬哲也「劇画『源と平太』での授業実践—マンガの中へ出てい
くと言いたいほど私はおこりました」(同右)
村橋 端「子どもへのくらしと心とからだ第5回—目のウロコ」
(同右)
東上高志「転換点にたった同和教育」
（『部落』四六一号、8月）
國塩忠昭「民主教育攻撃の現段階と民教連運動—県民のための教
育行政を求めて」(『部落問題—調査と研究』五七号、8月)
鈴木祥威「臨教審の動向と教育改革の課題—第一次答申をよん
で—」(『部落解放研究』四六号、9月)
森 実「学力総合実態調査への期待と展望」(同右)
《特集》「東京の解放教育」
（『東京部落解放研究』四四・四五号、9月）
武藤啓司「第37回全同教東京大会の成功を目指し、実践の質
の確認と深化を—東京の同和教育運動の現状と課題—」
岩田明夫「実践報告 地域を学ぶ—墨田区木下川小での実践

【人権】

- 久保田洋「アジア人権センターの設立を考える(3)—アジア太平
洋地域における人権機構設立への動き—」特にその最新の動
き」(『部落解放研究』四五号、7月)
スレイマン・ラエク「(海外研究動向) アフガニスタンの民族統
一問題」(同右)
部落解放研究所人権部会「(資料紹介) 人種差別撤廃条約第四条・
七条の実施に関する研究報告(4)」(同右)
モードJJジャクソン・神野明訳「南アフリカ人女性の語るアパル
トヘイト」(『こべる』九一号、7月)
《特集》「保育の公約保障とは」(『はらっぱ』三三二号、7月)
《いま、豊中では》
豊中市職員組合保育所職場委員会「はじめに—保育労働者と
しつ」
上嶋加津子「障害児共同保育にとりくんで—障害児の親とな
りつ」
豊中市職員組合保育所職場委員会「障害児保育にとりくんで
—豊中市の障害児保育」
三木祥子「障害児共同保育にとりくんで—共に育つ」
萩田哲男「住民基本台帳法の改正について—プライバシーの保
護、住民基本台帳公開制限」(『部落解放』二二三号、8月)
永井和子「アメリカの差別・偏見研究の動向」
（『社会啓発情報』二六号、8月）

から

- 申谷雄二「実践報告 生徒にあわせて学校を創る—南葛飾高
校における『同和』教育の歩み」
資料集検討グループ「都教委編『人権尊重教育の推進—同和
教育のための資料集』」批判」
生越 忠・川元祥一・藤沢靖介・松浦利貞「(座談会) 差別・
教育・近代化を考える—生越忠氏を囲んで」
開学解放教育を考える会「南武庫之荘地区実地研修の報告」
（『ひょうご部落解放』二〇号、9月）
川向秀武「(提言) 部落解放教育推進にとつてこころしておきた
らうこと」(『部落解放史ふくおか』三九号、9月)
松永唯道「(書評) 『子どものいる風景』(中山眞也著) を読ん
で」(同右)
東上高志「(今月の部落問題・同和教育) 正しい促進教育を(1)—
岸本・藤原氏の仕事と同和教育」
（『月刊どの子も伸びる』一〇二号、9月）
寺本了恵「(学校訪問) 滋賀県犬上郡甲良町立甲良東小学校」
（同右）
中村 正「(教師訪問) 三木校—先生(西宮市南甲子園小学校)」
（同右）
佐古田好一「断章・意欲は生活に根ざす」(同右)
広島県会議「広島県でまた教師自殺事件—県北庄原市で『解同』
教育介入」(『国民融合通信』一三五号、9月)
高木典子「課題を山積みして出発男女雇用機会均等法」(同右)
佐藤英善「行政情報とプライバシー保護」
（『人権通信』一一六号、8月）
《資料》「文部省『児童生徒のいじめの問題に関する指導の充実
について』」(同右)
元井一郎「ユネスコ…人権教育に関する国際会議—最終文書に
ついて—人権教育・啓発の展開とユネスコの活動」
（『部落解放研究』四六号、9月）
平沢安政「アメリカにおける人権教育—比較研究の発展にむけ
て—」(同右)
畑 律江「(ナイロビ報告) 女たちと会え、(人間)と出逢う」
（『部落解放』二三四号、9月）
小川雅由「『5・14通達』以降—外登法改正、指紋押捺つ制度撤
廃闘争の現局面」(『ひょうご部落解放』二〇号、9月)
永井清彦「(海外ノート) 『ナチス残党に時効はないのか』をめ
ぐって」(同右)
趙昌國「多民族社会にふさわしい教育を求めて—少数民族学
とは何か」(同右)
山崎元一「古代インドの差別—シュードラと不可触民—」
（『部落解放史ふくおか』三九号、9月）
古谷 馨「(動向) (運動) 『平等・発展・平和』の連帯の輪ひ
ろがる—ナイロビで国連婦人10年、NGOフォーラム—」
（『部落』四六一号、9月）
善元幸夫「引揚げの子どもたちにとっての日本、そしてアジア」

『福祉労働』二八号、9月）
長浜 幸「共に生きる道はひらけぬ雇用率制度―労働省の精神
薄弱者の就業状況調査」(同右)

渡辺鋭氣「現場からのレポート」新保守主義時代の全障連運動」
(同右)

堀 利和「現場からのレポート」教育におけるもつひとつ障
害者差別―普通学校への全盲教員採用をめぐる」(同右)

吉岡 誠「検証―身体障害者雇用促進法」(同右)

シンポジウム第一分科会実行委員会「日本弁護士連合会第28回人
権擁護大会へシンポジウム第一分科会」基調報告書レジューメ・
学校生活と子どもの人権―校則、体罰、警察への依存をめく
つ」(『自由と正義』三六卷九号、9月)

西嶋勝彦「徳島事件の再審無罪判決によせて―日弁連二七年間の
活動のあと」(同右)

【社会啓発】

《特集》「差別事件と社会啓発」(『部落解放』二二三号、7月)

山中多美男「最近の差別事件から―啓発をすすめるために」
上平桂士「住友金属では今……」

このまじと「岡崎工業の実践」

日向市職員部落解放研究会「『感動』から『差別認識』へ―
解放研運動の現状と課題」

宮崎一喜「郵便局における『同和』研修―大阪小包集中局を
例に」

山内淳一「上尾市における同和問題意識調査の結果」

(『国民融合通信』一三三号、7月)

(資料)「大阪人権歴史資料館ガイド」

(『社会啓発情報』二六号、8月)

枚方市職員研修所「仕事と直結した職場研修へ―冠婚葬祭図書を
めぐっての研修を中心に」(同右)

東上高志「講座 これからの社会啓発4―VI啓発教材と使い方」

(『部落』四六一号、8月)

加藤敏明「第七回全国部落解放研究者集会 啓発・運動部門会議
(報告)」(『部落解放研究』四六号、9月)

《特集》「啓発活動を考える」(『部落』四六二号、9月)

東上高志「民主的な社会啓発を」

瀬川負太郎「北九州市の市民啓発―『本当のカタチが見えま
すか』?」

編集部「昭和60年度同和啓発関係資料展示会に見る―社会啓
発資料の概要」

正木美穂「京都市の社会啓発のとりくみについて―私はこう
思う―京都市の同和行政」

寿岳章子「映画『友情』へ監督若杉光夫」

東上高志「講座 これからの社会啓発5―V啓発内容を考える前
に」(同右)

《部落問題についての全国青年意識調査特集》

(『解放の道―理論・政策・資料版』二十号、9月)

全国部落解放運動連合会青年部「部落問題についての全国青

年意識調査結果の報告

杉之原寿一「調査結果についての所見その1」

池田孝雄「調査結果についての所見その2」

内海 誠「調査結果についての所見その3」

(資料)「全国青年意識調査の集計結果」

【文化・思想】

乾 武俊「被差別部落伝承文化論序説(二)―柳田民俗学再考」

(『部落解放研究』四五号、7月)

沖浦和光「芸能史におけるへ散所」とへ河原く―芸能は、なぜ賤
民層によって担われたのか(その三)」

(『部落解放』二二三号、7月)

多田恵美子「連載・歌い継ごう部落の伝承歌 第三回―春駒―
湯浅、月塚、西郡」(同右)

東上高志「劇画・部落史学習シリーズ1 劇画『源と平太』の学
習を」(『部落』四五九号、7月)

北川鉄夫「うの目たかの目4―作品の命運」(同右)

東上高志「劇画『源と平太』の学習を」

(『月刊』の号も伸びる』九九号、7月)

森本景武「演劇『青き布団にくるまりて―石川一雄のたたかい』
全国巡演を願って」(『部落解放』二二三号、8月)

日野範之「部落きのうきょうあす①―竹籠の里―高知・戸波 伝
統産業の危機と再生への努力」(同右)

《創る―みんなのできる文化のページ》(同右)

大阪・西成よみかき教室「へ詩く家族を見つめて」

福田雅子「出会い、まきしき、の波紋から」

(『社会啓発情報』二六号、8月)

佐藤安男「聞き書き・アユさんの経験へその二」

(『部落』四六一号、8月)

川端俊英「本棚・部落問題をとりあげた百の小説」(同右)

北川鉄夫「うの目たかの目5―古書インフレ」(同右)

深沢安治「部落問題との出会い―深夜放送の映画紹介」(同右)

長谷川善計「部落問題の解決と文化問題」

(『部落』四六一号、8月)

日野範之「部落きのうきょうあす②―被爆と部落―広島県連被爆
二世の会 政平智春さんに聞く」

(『部落解放』二三四号、9月)

多田恵美子「連載・歌い継ごう部落の伝承歌 第四回―はやり唄
―おやまの唄」(同右)

山中正義「土佐の部落の昔ばなし世間はなしその4―冗談念仏」
(同右)

大島文司「へ映像時評」焦点をしばって、もっと映像に引きよせ
た論議を―第五回反差別映画祭を観て」

(『東京部落解放研究』四四・四五号、9月)

川元祥一「小説へ連載第四回く幻の川を渡れ」(同右)

北川鉄夫「うの目たかの目6―関東大震災こぼれ話」
(『部落』四六二号、9月)

植山光朗「部落問題との出会い―住民運動とのかかわりのなか

で」(同右)

【宗教】

曹洞宗人權擁護推進本部「曹洞宗における部落問題への取り組み」(『部落解放』二二三号、7月)

林 力「『同和問題ととりくむ福岡県宗教者連絡協議会』結成におもむく」(『部落解放』二二三号、8月)

望月廣三「親鸞の解放運動論—その一視点①」

(『ひょうご部落解放』二〇号、9月)

【通史】

小林 宏「部落問題との出会い—六〇年安保闘争の最中に—」

(『部落』四五九号、7月)

藤谷俊雄「連載・二〇世紀に生きる—あるインテリの自伝的歴史

② 二・二六事件」(同右)

石田眞一「部落の青春—揚子江の流れ—」

(『月刊どの子も伸びる』九九号、7月)

《特集》「戦後四〇年と部落問題」(『部落』四六一号、8月)

藤谷俊雄「戦後四〇年を問う」

馬原鉄男「戦後四〇年と部落問題—北原・三木・中西氏の生きざとをとおして—」

きざとをとおして—」

〈わたしの戦後四〇年〉

金崎 是「部落問題と被爆者問題と」

佐古田好一「『はぐるま』誕生のあとをたずねる」

酒本数三郎「働く仲間ととまに四十年」

手塚 亮「長すぎる戦後」

西門民江「私のあるらてきた道」

水田精喜「未完成の記録」

光岡眞郎・浅津亜子「父が子に語る戦後の部落問題へその

一〈一

沢田留治・沢田明彦「父が子に語る戦後の部落問題へその

二〈一

藤谷俊雄「連載・二〇世紀に生きる—あるインテリの自伝的歴史

① 『学生評論』参加」(同右)

石田眞一「部落の青春—太陽山の死」

(『月刊どの子も伸びる』一〇〇号、8月)

岡あきら「荆冠記第四部『曉雲』第十章」

(『部落問題—調査と研究』四七号、8月)

山口 圭「忘れぬうちに・思ひ出(その5) — 事実は事実とし

て」(同右)

本田 豊「研究ノートから」部落史研究の理論問題—姓をめ

くって」(『東京部落解放研究』四四・四五号、9月)

本田 豊編「ハスクラップ帖から」部落史ニュース西・東」(同右)

(話し手) 山本源之助・(聞き手) 田宮 武「聞き書き・部落解

放の人たち②」(『ひょうご部落解放』二〇号、9月)

(資料) 「報告」第四回九州地区部落解放史研究交流会」

(『部落解放史ふくおか』三九号、9月)

藤谷俊雄「連載・二〇世紀に生きる—あるインテリの自伝的歴史

② 文化運動と人民戦線」(『部落』四六二号、9月)

石田眞一「部落の青春—恨千年」

(『月刊どの子も伸びる』一〇二号、9月)

【近代】

中尾健次「近世部落史研究の現状と課題」

(『部落解放研究』四五号、7月)

山路興造「近世に生きる人びと2—鉢叩き」

(『こべる』九二号、7月)

西本浩一「東日本』部落の歴史』研究会—『部落の歴史 東日本

篇』の成果をふまえて—」(『部落』四五九号、7月)

藤本清二郎「部落の生活史33—和歌山城下非人の旅船木上げ仲

間」(同右)

中村泰彦「第一回研究会報告要旨」史料からみた大和高田被差

別部落の歴史」(『大和高田部落史研究会会報』二号、7月)

(資料) 「〈史料紹介〉牛草買請の儀につき回答書」(同右)

吉田 清「近世に生きる人びと3 隠坊(三味聖)」

(『こべる』九二号、8月)

高橋秀夫「第三回研究会報告要旨」部落史をめぐる基本的な考

えかたについて」(『大和高田部落史研究会会報』三号、8月)

(資料) 「〈史料紹介〉草場売券」(同右)

黒田日出男「落中落外図の大神人」

(『部落問題研究』八四号、8月)

鈴木則子「(紹介) 井ヶ田良治著『近世村落の身分構造』」

酒本数三郎「働く仲間ととまに四十年」

手塚 亮「長すぎる戦後」

西門民江「私のあるらてきた道」

水田精喜「未完成の記録」

光岡眞郎・浅津亜子「父が子に語る戦後の部落問題へその

一〈一

沢田留治・沢田明彦「父が子に語る戦後の部落問題へその

二〈一

藤谷俊雄「連載・二〇世紀に生きる—あるインテリの自伝的歴史

① 『学生評論』参加」(同右)

石田眞一「部落の青春—太陽山の死」

(『月刊どの子も伸びる』一〇〇号、8月)

岡あきら「荆冠記第四部『曉雲』第十章」

(『部落問題—調査と研究』四七号、8月)

山口 圭「忘れぬうちに・思ひ出(その5) — 事実は事実とし

て」(同右)

本田 豊「研究ノートから」部落史研究の理論問題—姓をめ

くって」(『東京部落解放研究』四四・四五号、9月)

本田 豊編「ハスクラップ帖から」部落史ニュース西・東」(同右)

(話し手) 山本源之助・(聞き手) 田宮 武「聞き書き・部落解

放の人たち②」(『ひょうご部落解放』二〇号、9月)

(資料) 「報告」第四回九州地区部落解放史研究交流会」

(『部落解放史ふくおか』三九号、9月)

藤谷俊雄「連載・二〇世紀に生きる—あるインテリの自伝的歴史

(同右)

井手幸喜「(資料) 続・丹波国菟原下村家作願いに関する史料」

(同右)

調査研究所研究部会歴史(近代) 「(史料解説) 渋染一揆の検

約令 明治五年上房部の騒動の供述書」

(『部落問題—調査と研究』五七号、8月)

山本尚友「近世に生きる人びと4 青屋」

(『こべる』九三号、9月)

井手幸喜「(動向) 〈研究〉中世身分制と『部落』史研究—日本

史研究会・民科京都支部・部落問題研究所の合同部会—」

(『部落』四六二号、9月)

吉田栄治郎「第一回研究会報告要旨」大和高田市域における部

落史研究の課題と展望」

(『大和高田部落史研究会会報』一号、1985年6月)

(資料) 「〈史料紹介〉六尺給米免除に付差上状(本郷町・堀江

彦三郎文書)」(同右)

【近代】

《特集》「部落史・解放理論研究の現状と課題」

(『部落解放研究』四五号、7月)

藤野 豊「水平運動史研究の論点と課題—『水平運動史の研

究』以後の研究史の総括—」

金子マーティン「紡績工業と被差別部落再論—若干の疑問と

補足—」

城間啓雄「水平運動における反宗教闘争」

藤野 豊「国本社における水平運動観—平沼騏一郎、中央融和事

業協会会長就任の背景」(『部落問題研究』八四号、8月)

斎藤 健「埼玉における労・農運動と水平運動—民衆史としての解放運動」(同右)

大谷 正「(書評)部落問題研究所編『部落史の研究—近代篇』」(同右)

青木孝寿「(紹介)『覆刻・公道』」(『同右』)

小林 茂「日本資本主義下の部落」

(『部落解放研究』四六号、9月)

直原弘道「兵庫県の解放運動と前田平一—そのII」

(『ひょうご部落解放』二〇号、9月)

石瀧豊美「福岡県における『解放令』布達をめぐるって」

(『部落解放史ふくおか』三九号、9月)